



(写真上) 劇団を主宰していた頃の一葉 (1983年)。「K町物語」という演目で、娼婦のヒモ役を熱演! (写真下) 京王プラザホテルの社内報 (1985年7月号) の表紙を飾った宴会のウェイター時代の筆者。

“居所変わり”の私のこれまで

柴田 励司

キャドセンター 取締役社長

7月1日から株式会社キャドセンターの代表取締役を拝命しました。米国系組織・人事コンサル

した。

私の“これまで”は、「劇団主宰

婦のヒモ、死体などロクな役がありませんでしたが、脚本・演出ではそこそこの評価をいただいていたと自負しています。

ティングのマーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング

者」「ホテル下積み」「在オランダ日本大使館員」「人事マン」「コンサルタント」という5つのカテゴリーに整理できます。

ホテルでは皿洗い、ベルボーイ、宴会のウェイター等を経験しました。それまで決して会うことのなかった背景様々な方に接し、ヒトを見る視界が一気に広がったように思います。ウエイター時代、「持ち回り」という大きな皿に載せられた料理をお客さまのお皿に盛り分けする技術が上手くできず、シルバー製のスプーンとフォークを自宅に持ち帰り、

日本法人の社長を6年強務めた後に、自らの信念(一人の人間が長くトップをやるのはよくない)に基づき辞任し、事業会社に転じま

リに整理できます。大学時代から始めた劇団は「セミプロ」のつもりでした。2カ月に一度のペースで都内の小劇場で公演をうち、外部向けに脚本を提供し、

「演劇で飯を食う!」と本気で考えていました。役者としては、娼

外部向けに脚本を提供し、

トを見る視界が一気に広がったように思います。ウエイター時代、「持ち回り」という大きな皿に載せられた料理をお客さまのお皿に盛り分けする技術が上手くできず、シルバー製のスプーンとフォークを自宅に持ち帰り、

「演劇で飯を食う!」と本気で考えていました。役者としては、娼

た背景様々な方に接し、ヒトを見る視界が一気に広がったように思います。ウエイター時代、「持ち回り」という大きな皿に載せられた料理をお客さまのお皿に盛り分けする技術が上手くできず、シルバー製のスプーンとフォークを自宅に持ち帰り、



京王プラザ 7 1985 No. 175

マッチ棒をつかむ練習をしたことを思い出します。ホテル下積みと劇団活動の二足のわらじはオランダ行きで解消。オランダでは、公務員の世界を体験しました。帰国後はホテルに戻り、夜のフロントを担当。そこでは、世の中の表裏を勉強させていただきました。その後、ホテルの人事を組合と会社の両方から経験。マーサーへのキャリアにつながります。現在45歳。社会人として折り返し地点にやっと到達したところで。今後は、雇われ経営者としての「修行」です。同友会の諸先輩方、ご指導よろしくお願ひします!

